

大阪医療センターをご利用くださる先生方へ

# Osaka National Hospital

# News



独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターニュース

No.62  
平成30年●月

このニュースは、年4回、  
大阪医療センターの最新情報をお届けいたします。  
詳しいお問い合わせは  
地域医療連携室までお寄せください。



## 目次

### 地域医療連携室より

- ・ 新任及び退職医師のお知らせ ..... 2
- ・ 講演会のご案内 ..... 2

### 病院のトピックス

- ・ アドベンチャーホスピタル..... 3
- ・ 放射線の取扱いに関する「平成30年度 教育訓練」を実施しました ..... 6
- ・ 骨密度測定のご案内..... 7
- ・ 第63回 おおさか健康セミナー開催報告 ..... 8
- ・ インターネット外来予約 医師指定開始のご案内..... 9
- ・ がん相談支援センターのご案内..... 10
- ・ 脳卒中・循環器疾患におけるホットラインのご案内... 11
- ・ NHO PRESS ～国立病院機構通信～について... 11

独立行政法人 国立病院機構 **大阪医療センター**

**地域医療連携室** 平成30年●月発行 62号

〒540-0006 大阪市中央区法円坂2-1-14

TEL.06-6946-3516

☎ 0120-694-635

FAX.06-6946-3517

[HP] <http://www.onh.go.jp/>

[E-mail] [comonh@onh.go.jp](mailto:comonh@onh.go.jp)

# ～ 独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの理念～

私たち、独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの職員は、

- 1、医療に係わるあらゆる人々の人権を尊重します。
- 2、透明性と質の高い医療を、分け隔て無く情熱をもって提供します。
- 3、医学の発展に貢献するとともに良き医療人の育成に努めます。
- 4、常に向上心をもって職務に専念し、健全な病院運営に寄与します。

## ～理念に基づいた病院の基本方針～

—— 独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの診療・研究・教育方針 ——

### 1) 政策医療の推進

- ・ 基幹医療施設としての「がん」「心・大血管疾患」「脳卒中」「糖尿病」等、高度総合医療の実施
- ・ HIV/AIDS先端医療の推進（近畿ブロック拠点病院）
- ・ 3次救急医療と災害医療の推進（西日本災害医療センター）
- ・ 専門医療と総合診療の充実
- ・ 医療機関の機能分担の推進と地域医療への貢献（地域医療支援病院）



### 2) 高度先進医療への貢献

- ・ 技術開発：先進的医療の基盤となる技術の研究開発とその臨床応用の確立
- ・ 臨床研究：病因の解明、診療治療法の開発等の臨床並びにその基礎となる研究の実施
- ・ 臨床試験の推進：治験を含む臨床試験の円滑な実施とその管理・支援

### 3) レベルの高い医療人を育成

- ・ 卒前教育：医療系教育施設と連携した教育活動と実習生の受入
- ・ 卒後研修：初期臨床研修医及び後期臨床研修医（専修医）等、卒後の医療技術者の育成
- ・ 専門職の育成

### 4) 情報開示と情報発信

- ・ 透明性を保った情報の開示・発信

## 新任及び退職医師のお知らせ

### 新任医師

異動年月	職名	氏名	異動内容
H30.8.1	心臓血管外科医師	齊藤 哲也	採用
H30.8.1	脳神経外科医師	高野 浩司	採用
H30.10.1	救命救急センター医師	吉川 吉暁	採用
H30.10.1	整形外科医師	峠 憲太郎	採用
H30.10.1	産婦人科専攻医	越田裕一郎	採用

### 退職医師

異動年月	職名	氏名	異動内容
H30.7.31	心臓血管外科医長	北林 克清	退職
H30.7.31	脳神経外科医師	沖田 典子	退職
H30.9.30	整形外科医師	川島 邦彦	退職
H30.9.30	整形外科専修医	前 裕和	退職
H30.9.30	皮膚科専修医	藤森なぎさ	退職
H30.9.30	産婦人科専修医	三上 哲平	退職
H30.9.30	脳神経外科専修医	寺田 栄作	退職

## 講演会のご案内

開催日時	件名	内容	対象者
平成31年2月2日(土)	第65回おおさか健康セミナー	テーマ：未定 担当：形成外科・乳腺外科	一般市民
平成31年2月9日(土)	第46回法円坂地域医療フォーラム	テーマ：HIV感染症・先天性凝固異常症 担当：感染症内科	医師及び医療従事者

**開催場所** 大阪医療センター 緊急災害医療棟3階講堂 **アクセス** 地下鉄谷町線・中央線「谷町4丁目」駅①号出口すぐ

**問合せ** 地域医療連携室（電話：06-6946-3516）

## アドベンチャーホスピタル

毎年恒例のアドベンチャーホスピタルを6月24日に開催いたしました。アドベンチャーホスピタルは、病院の診断から治療まで体験できる当院開催のイベントです。各部署のブースでは様々な体験・展示を行っており、将来、医療職を目指す中学生・高校生をはじめ、近隣住民の方など多くの方々に参加して頂いています。今回は、薬剤部・リハビリテーション科、また同時開催した「リボonzハウス」イベントについて、報告いたします。



## 薬剤師 矢淵 慈子

6月24日に開催されたアドベンチャーホスピタルにおいて、薬剤部ではお菓子やジュースを薬に見立てて調剤体験コーナーを開設しました。普段はあまり見ることのできない機械や自分の名前が印字された薬に目を輝かせる子供たちも多く、終日たくさんの方に来ていただくことが出来ました。

「私の薬もこうやって出来るのかな」という言葉に、改めて調剤の先には薬を飲む患者さんがおられることを感じ、通常業務とはまた違った充実感を得ることが出来ました。イベントに参加された人の中に医療に関心をもって、将来の進路に選んでくれる方がおられたら嬉しく思います。



休憩時間には他部署の展示を見学させていただきました。普段直接関わることが少ない他職種の仕事を覗いたり、制服を着たりと、とても楽しい時間を過ごしました。

病院の中を知ってもらえる機会はなかなかないため、今後もこういったイベントが続くことを願います。

## 言語聴覚士 西垣 智子

リハビリテーション科では、例年通り「車椅子や松葉杖を使ってみよう！」「リハビリってどんな仕事？」をテーマに行いました。リハビリテーション科はメインの会場とは別棟にあり、若干分りにくい場所であるにもかかわらず、大変多くの方に来ていただきました。

理学療法（PT）では、実際に車椅子に乗ってみたり、松葉杖を使って歩いてみるという体験をしてもらいました。車椅子を自分で操作することは初めての方には意外に難しく、思い通りに方向転換できなったり、上り坂の途中で止まってしまったりしている方が多くおられました。松葉杖体験は小学生のお子さんに好評で、セラピストに支えられながら松葉杖で何度も階段を上り降りしていました。このような体を動かす体験は挑戦意欲をかき立てられるようで、他のブースを回った後に再度来てくださるご家族もおられました。





作業療法（OT）では上肢の訓練用具や自助具を紹介し、体験してもらいました。小さなお子さんには輪投げやペグといった訓練用具は遊び感覚で楽しんでもらえたようです。一方で付添いの親御さんや学生さんは、足を延ばしたままで靴下が履けるソックスエイドなどの初めて見る自助具に興味をもたれる方が多かったです。実際に手に取ってみたいセラピストのデモンストレーションに興味深く見ておられました。

言語療法（ST）では、パネルにてSTの仕事の内容や検査道具、訓練場面の写真などを掲示し紹介しました。来場者の中には「将来、医師や看護師になろうと思っているがSTの仕事は知らなかった」という学生さんもおられ、色々な質問をしながらのSTの説明を熱心に聞いておられました。

リハビリのブースに来られた学生さんに、「将来なりたい仕事、興味のある職種」を聞いてみると、「医師」「看護師」「薬剤師」といった答えが多く、リハビリ関係を目指したいという方は少なかったのがとても残念でした。このアドベンチャーホスピタルをきっかけに、一人でも多くの方がリハビリの仕事に興味を持ち、この仕事を目指したいと思っていただけたら嬉しいです。

メイクやスキンケアでお困りのことはありませんか？  
がん治療中の患者さんとご家族はどなたでもご参加できます

### リボズハウス「がん支え合いの日」 イベント同時開催 12:30~14:30

- いきいき美容教室（事前申込）  
「スキンケア&メーキャップテクニック」（女性向け）  
「ハンドケア&ネイル教室」（女性向け）  
「身だしなみサロン〜洗顔・スキンケア〜」（男性向け）
- がんサロン

6月24日（日）に、アドベンチャーホスピタルとの合同開催で、リボズハウスのイベントを行いました。

今回は、資生堂さんにご協力をいただき、男性向けの身だしなみ講座と、女性向けのネイル講座、メイク講座を行いました。

男性向けの身だしなみ講座では、当院の職員も参加して、シェービング後のスキンケアやヘアトリックの使い方などについて学びました。紫外線や汗のにおいが心配なこれからの季節にぴったりの内容で、楽しんでいただけました。

女性向けのメイク講座では、資生堂さんのマキアージュといった身近な商品を実際に使って、いつもとは違うカラーを楽しみながら、汗や皮脂でもにじみにくくするテクニックを学びました。ネイル講座では香りのよいクリームでハンドケアを行い、ネイルシールを用いながら、明日からすぐに実践できるセルフネイルのコツを教えてくださいました。がんの治療で爪が弱くなったりくすんでしまったという方も、上品で華やかな指先になり、喜んでいらっしゃいました。

リボズハウスでは、毎年このように、がん患者さんの癒しや活力になるようなイベントの企画と、がん患者さんの憩いの場としてがんサロンの開設をしております。今年度は秋に行う予定です。（6月開催分は昨年度開催分に含まれます。）皆様に楽しんで喜ん

でいただける催し物を提供できるよう、今後とも工夫してまいります。







## その他の部門の様子



来場者は、432名と昨年よりも多くの方々に来て頂きました。ありがとうございました！

# 放射線の取扱いに関する 「平成30年度 教育訓練」を実施しました

国立病院機構 大阪医療センター 診療放射線技師長 中尾 弘

放射線を取り扱う当院の職員（放射線診療従事者）は、放射線の管理区域に立ち入る前、「放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律施行規則」により教育訓練（放射線関係法令、大阪医療センター放射線障害予防規程等）の受講が定められています。今年度も4月に赴任した業務立入前の全医師及びコメディカルを対象に、また初期研修医全員に向けた教育訓練を実施しました。入職後は年に1回、継続で就業される方に向けた教育訓練を実施しており、今年度は7月初旬に同じ内容で6回実施しました。

教育訓練には、“法令に関する事・人体への影響に関する事・安全な取扱いに関する事”と盛り込む内容が決められています。決まった内容ならば、1度受ければよいのではと考える方もいるかもしれませんが、この法律は「放射線障害を防止し、公共安全を確保することを目的に制定された法律」であり、平たく言えば「国民の生命と財産を守るため」であると考えられます。自動車の運転免許更新みたいなものでしょうか。受講対象者は、各ライセンスを持って業務に就き、その対象は患者さんです。年に1度は放射線を取扱う業務に対する振り返りや忘れていたことをリフレッシュする機会に捉えてもらえるよう、考えていま

す。実は法律で、人体に大きな影響が考えられる高エネルギーを用いる放射線治療に従事する職員は、“業務従事者”と呼び、教育訓練に加え、日頃から業務に関連する研修や勉強会へ参加し、常に放射線の取扱いに関する知識や技術をアップデートしています。通常の検査や血管内治療においても、手技によっては、人体に無視できない線量を付与する可能性があります。手技に集中しがちな医師や、どうしても患者さんのことが気になる看護師のためにも従事する職員自身の安全管理の上で、知っておくべき知識やちょっとしたテクニックを学んでもらえるような内容も入れています。

外部講師を招いて実施する施設もありますが、当院の診療放射線技師は、国家資格でもある「第一種放射線取扱主任者」を有する技師が日替わりで講義を担当します。当院は近畿の国立病院機構中、職員数に占める保有率が一番高いです。原子力災害で注目度が高くなった日本では、法改正を受けて、医療現場でも放射線の安全管理の在り方が喫緊の課題となっています。外部に向けても安全性や信頼性を示し、施設を挙げて取り組むよう、求められています。今後も放射線診療及び管理について、ご理解と協力をお願いする次第です。

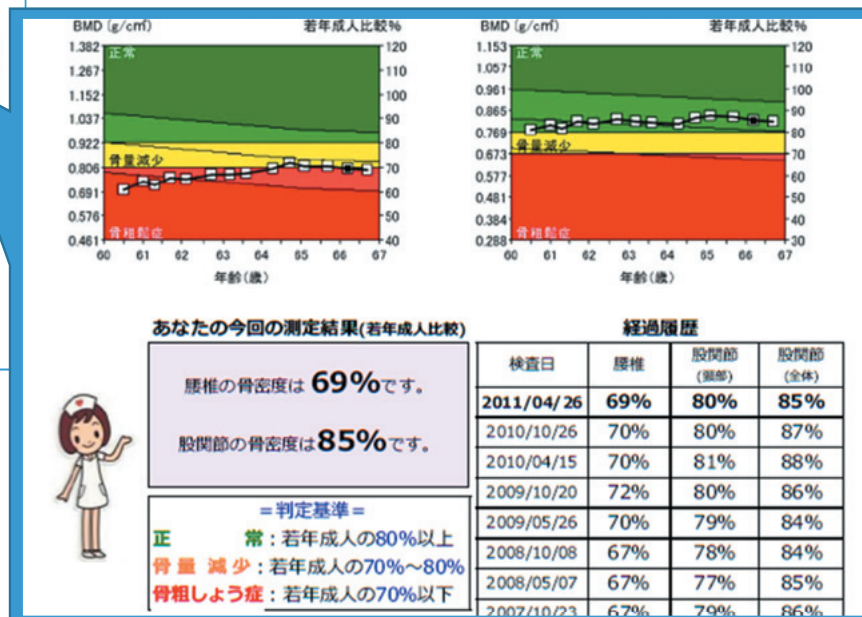
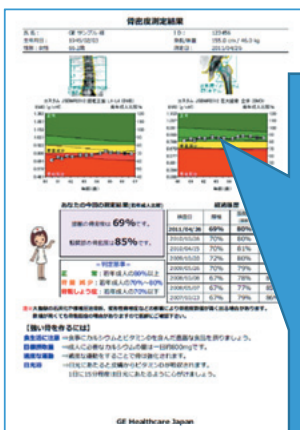




# 骨密度測定のご案内

大阪医療センターでは、骨密度の検査においてDEXA法（平成30年2月更新）を用いています。『骨粗鬆の予防と治療のガイドライン』でも、この方法が推奨されています。

加齢とともに骨密度が低下すると、骨の中がスカスカな状態（骨粗鬆症）になり骨折しやすくなります。女性は男性より骨量が少ない上に、閉経後にはホルモンバランスが崩れ、骨密度が低下します。代謝性骨疾患の診断・治療効果の判定などに役立っています。骨密度の値は年々変化していきます、経時的な変化をみるためにも同じ施設での検査をおすすめします。



検査は、極めて少ないX線を利用し、5~10分程度、仰向けに寝ているだけです。

## 第63回 おおさか健康セミナー開催報告

国立病院機構 大阪医療センター 腎臓内科 科長 岩谷 博次

第63回おおさか健康セミナーを、平成30年7月14日午後2時から大阪医療センター緊急災害棟3階の講堂で開催しました。今回は『腎臓いきいき、健康長寿を！』をテーマとし、腎臓内科が担当しました。まず、当院地域医療連携推進部長の巽啓司医師より開会の挨拶がありました。

講演の第1部は「腎臓はどのような働きをしているのか？」というテーマで、腎臓内科科長の岩谷より話をさせていただきました。尿をつくるという地味に思える仕事をしている腎臓ですが、それ以外にも多くの仕事を行っており多機能な臓器です。進化の過程で生命が海から陸へ上がる際に、乾燥に打ち勝つため、水分やナトリウムを体に取り込もうとする機能が腎臓に組み込まれたと考えられています。蛋白尿や糸球体濾過量（GFR）低下の状態は、透析といった末期腎不全リスクが高いだけでなく、心筋梗塞、脳梗塞、脳出血による死亡リスクも高く、まさに腎臓を守ることは長寿の鍵です。ひとたび脳梗塞、脳出血となれば寝たきりリスクも高く、腎臓を守ることは、健康長寿の鍵ともいえます。

第2部は「当院における慢性腎臓病教育入院の実際」のテーマで当院の堀田亜州美看護師より話がありました。堀田看護師は、西11階病棟に所属し、腎臓病や透析患者さんの療養、指導に積極的に関与しております。病棟において腎臓病教育入院で行っていること、また入院中や日頃の生活で気を付けることなど、分かりやすく話をしておりました。

第3部は「減塩食の実践編 腎臓病での食事療法のコツ」と題して当院の宗本由香主任栄養士より話がありました。腎臓食といえば、カリウム制限、水分制限、低蛋白食、減塩食など、さまざまなことを患者さんは思い浮かべられるかと思いますが、実はどの食事療法を行うのかは、患者さんの病態によって異なります。その中でも、多くの患者さんに当てはまることの多い減塩食について、クイズ形式を交えながら、また日頃のご経験を活かしながら、分かりやすく話をしておりました。

第4部は「腎臓病の患者さんに知ってほしい薬の話」と題し、当院の今西嘉生里より話がありました。腎臓病においては、腎臓の機能低下を遅らせるために必要な薬剤、また低下した腎臓の機能を補う薬剤が必要であること、また薬剤によっては、腎機能に応じて量を減らして使用する必要があることなどを話し、また主治医から処方された薬剤は、きちっと飲みましょうと話をしておりました。

最後の質問コーナーでは、各演者より回答させていただきましたが、すべてをご紹介しきれないほど、参加者の皆様より多くの質問をいただき有難うございました。当日は、大変な暑さにも関わらず、院外121名、院内3名の合計124名もの方々にご参加いただき、大変盛況で、腎臓への関心の高さの表れだと感じました。





# インターネット外来予約 医師指定開始のご案内

国立病院機構 大阪医療センター 地域医療連携推進部長 巽 啓司

地域の病院、診療所の先生方におかれましては、平素より当院との地域医療連携にご協力いただきありがとうございます。

当院ではリアルタイムに外来予約をお取りいただけるよう、昨年よりインターネットを通じた外来予約システムをはじめました。おかげさまでご利用は徐々に増えておりますが、このたび、10月より、さらにご利用いただきやすいシステムに改良しましたので、ご案内させていただきます。

1) インターネット外来予約で（一部）医師指定ができるようになりました！

従来の診療科の予約では、患者さんが来院されるまで担当医師名が分かりませんでしたので、医師指定ができないかとのご要望をいただいております。まだすべての医師を選択することはでき

ませんが、今後、順次指定可能医師を増やしてまいります。

2) インターネット外来予約の取得可能期間を3日後に短縮しました！

これまでは「申込日より1週間後」でしたが、「申込日より3日後」から予約していただけるようになりました。

先生方にインターネット予約をご活用いただけるよう、少しずつですがこれからも改良を進めてまいります。なお、従来からのFAXでのご予約もご利用いただけます。

今後とも地域連携にご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



お問い合わせ先  
 大阪医療センター 地域医療連携室  
 電話：06-6946-1331（代表）  
 メール：comonh@onh.go.jp

# 『地域のみなさまからの ご相談もお受けしております』

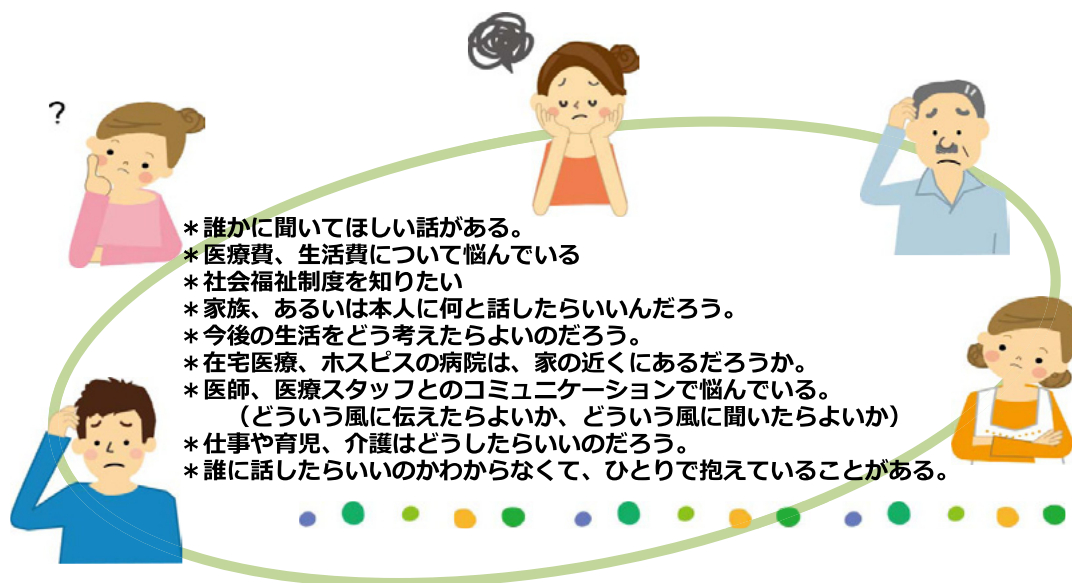
大阪医療センター

## がん相談支援センター のご案内



患者さん・ご家族の皆さまが、治療を受けながら考えておられること、生活の中で抱えておられるお気持ち、などお話を聞かせていただくことにより、悩みやお気持ちの整理をお手伝いし、解決の糸口を一緒に考えます。  
お気軽にご利用ください。

相談料は無料で、相談内容における個人情報厳守いたします。  
\*ご入院中の方は、ご希望により、病室までお伺いいたします。



相談にあたっては、患者さんやご家族のお考えやお気持ちを尊重し、できるだけみなさまご自身で問題の解決を図れるよう支援をいたします。

■ 大阪医療センター・がん相談支援センター ■

☎ 06-6942-1331 (代表)

[月曜日～金曜日] 9:00～16:00

外来休診日はお休みです

相談対応：看護師・医療ソーシャルワーカー



がん看護相談も  
やってます





# 脳卒中・循環器疾患におけるホットラインのご案内

当院では、主に救急隊からの脳卒中・循環器疾患による患者搬送を受け入れできるよう、脳卒中・循環器ホットラインを設置しておりますが、本ホットラインは救急隊からの要請に限定したのではなく、広く各医療機関様からのご連絡も24時間お受けできる体制を取っています。

貴院かかりつけ患者様あるいは救急搬送された患者様で、脳卒中・心臓・大血管疾患の急変等が起こった際の搬送先として、当院のホットラインをぜひご活用ください。



独立行政法人 国立病院機構  
**大阪医療センター**

〒540-0006 大阪府大阪市中央区法円坂2-1-14 TEL: 06-6942-1331 (代)

循環器ホットライン

**06-6946-3544**

循環器疾患24時間対応します。

脳卒中ホットライン

**06-6946-3543**

脳血管疾患24時間対応します。

医師及び消防局救急隊からの電話に限ります。

## NHO PRESS ~国立病院機構通信~について

大阪医療センターは、国立病院機構（NHO: National Hospital Organization）という141の病院からなる国内最大級の病院ネットワークの病院です。

国立病院機構（NHO）という病院ネットワークが、どのようなグループでどのような活動をしているのかを紹介する『NHO PRESS~国立病院機構通信~』を発行しています。

ホームページに最新号と過去のものを掲載していますので、ぜひご覧になってください。「NHO PRESS」で検索してください。



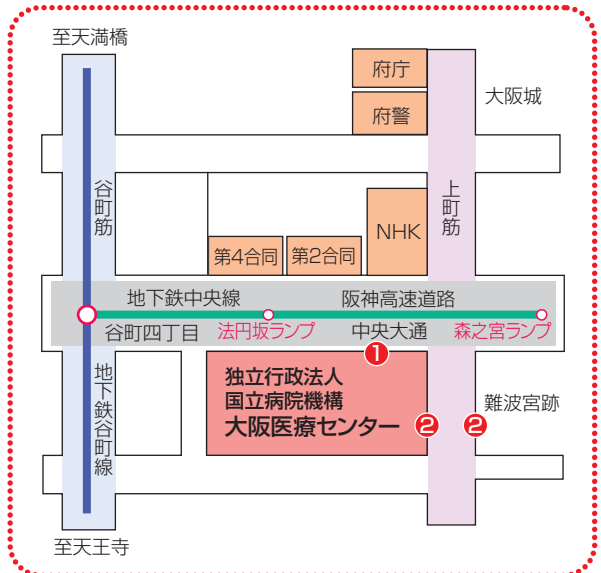
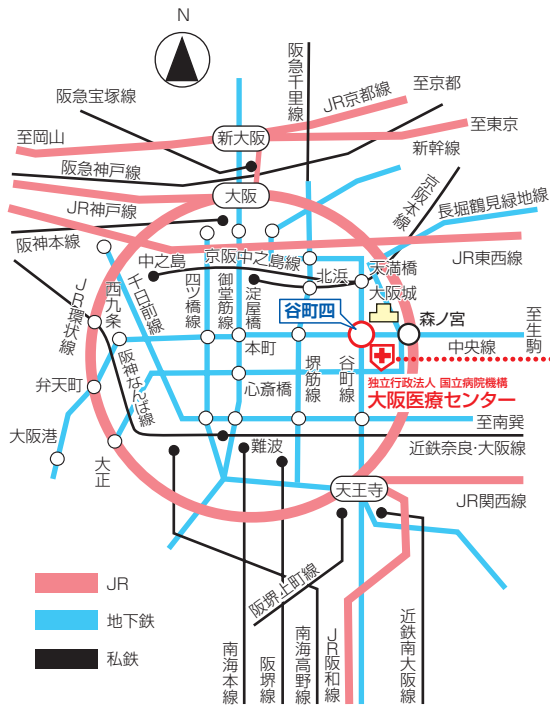
NHO PRESS

検索

QRコード



## 交通のご案内



① 地下鉄「谷町4丁目」11番出口 ② 市バス「国立病院大阪医療センター」

### ■地下鉄

谷町線・中央線「谷町4丁目」駅下車 ①番出口すぐ

### ■J R

大阪環状線「森ノ宮」駅下車、地下鉄中央線乗り換え  
「谷町4丁目」駅下車 ①番出口すぐ

### ■バ ス

市バス「国立病院大阪医療センター」下車

### ■マイカー・タクシー

・阪神高速 13号 東大阪線

▼環状線経由の場合

「法円坂」出口 上町筋を右折すぐ

▼東大阪方面からの場合

「森之宮」出口 中央大通り直進、上町筋を左折すぐ

・上町筋と中央大通りの交差点の南西角

・お車の出入口は上町筋です。